

Economic Indicators

発表日: 2022年10月28日(金)

主要経済指標予定(2022年10月31日~11月4日)

(株)第一生命経済研究所 経済調査部
日本経済短期チーム(Tel: 03-5221-4525)

(10月31日~11月4日の主なイベント、指標予定)

	指標名	当社予測	市場予測	市場予測レンジ	前回結果
10月31日 (月)	8:50 9月鉱工業指数・速報 生産(前月比) (前年比)	▲1.4% +10.0%	▲0.8% +10.4%	▲3.6%~+0.7% +6.5%~+12.3%	+3.4% +5.8%
	8:50 9月商業動態統計・速報 小売業販売額(前年比)	+4.1%	+4.1%	+2.0%~+7.5%	+4.1%
	14:00 9月住宅着工統計 新設住宅着工戸数(前年比) (季調値年率)	+2.4% 85.8万戸	+2.3% 86.5万戸	▲2.4%~+7.0% 84.0万戸~90.3万戸	+4.6% 90.3万戸
	14:00 8月サービス産業動向調査 売上高(前年比)	—	—	—	+5.4%
	14:00 9月消費動向調査 消費者態度指数(一般世帯、季調値)	—	—	—	30.8
	11月1日 (火)	14:00 9月新車販売台数 乗用車(前年比) 軽乗用車(前年比)	— —	— —	— —
8:50 9月マネタリーベース (前年比)		—	—	—	▲3.3%
8:50	金融政策決定会合議事要旨 (9月21・22日分)				
11月3日 (木)	文化の日				
11月4日 (金)					

9月鉱工業生産指数 当社予想：前月比▲1.4% 中央値：同▲0.8%

9月の鉱工業生産は、前月比で▲1.4%の低下を予想する。前月に高い伸びだった輸送用機器、生産用機械で反動減を見込む。もっとも、単月ではマイナスでも、仮にこの数値が実現すると7-9月期は前期比+5.9%ptと、大幅なプラスが予想される。先行きについては、半導体等の部品供給不足は徐々に緩和に向かうものの、海外経済の減速による需要減で、生産は足踏みを余儀なくされるだろう。

(副主任エコノミスト：大柴 千智)

9月小売業販売額 当社予想：前年比+4.1% 中央値：同+4.1%

物価上昇による下押しはあったものの、9月は新型コロナウイルスの感染者数が減少したことで外出手控えの動きが弱まり、個人消費は持ち直した可能性が高い。既に公表されている業界統計でも9月の財消費が好調に推移したことが示されており、小売業販売額も前月比で増加すると予想。

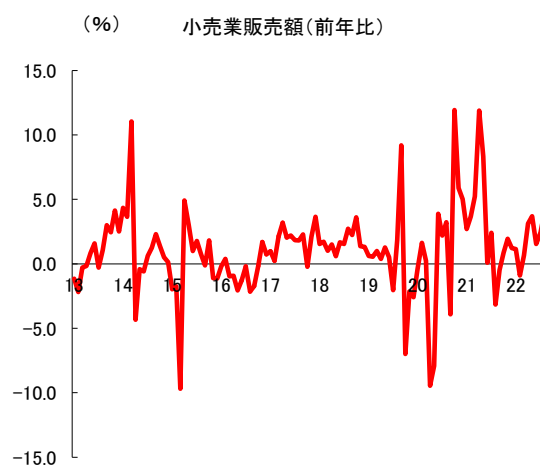
(シニアエグゼクティブエコノミスト：新家 義貴)

図表1



(出所)経済産業省「鉱工業指数」

図表2



(出所)経済産業省「商業動態統計」

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

